

囲碁入門講座通信 令和2年 第18号



報告:有楽斎

毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中です**。(棋士名は椿に因んだ名をニックネームとして表記しています)

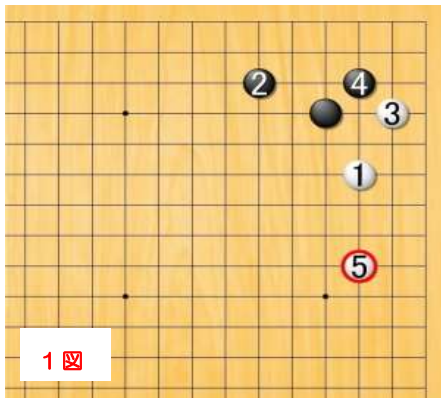
今号も、入門者用に囲碁用語を少々ご案内したいと思います。(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

囲碁用語 初めての定石(星に小ゲイマガカリ)

定石とは、隅を起点にして、双方が最善を尽くした結果出来上がった、部分的に互角とされる手順のことをいいます。ただし、部分的には「最善」であっても、盤面全体の中では打たれた定石の価値判断が変わってくることは、常にあることです。そこが碁の深いところなのですが、初心者の段階では説明されてもなかなかわからない領域です。

プロから初心者まで、よく打たれる星の基本定石

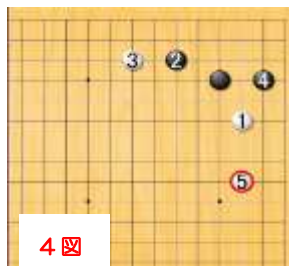
(8月10日発行 第15号でもご案内しました星に小ゲイマガカリの復習です。)



1図 小ゲイマガカリにケイマ受け 白3ケイマのスベリ、黒4の三々(コスミ)はともに根拠を持つための手です。白5で一段落。双方が隅に安定した基盤を持ち、満足しています。この定石はその後のケアも知っておく必要があります。

2図 上辺からのツメには 1図の後、白は上辺から白1と迫って、黒をおびやかす手がありますが、これには黒2と受けておいて安泰。黒aと白石△を取る手が残ります。白1に対して黒が手抜きをすると、白に2と打たれて攻められ、白に主導権を奪われます。

3図 黒不満なし 状況によっては、白1とこちら側から動く手もあります。黒の手抜きには白aがありますが、黒2と二間にヒういておいて不満はありません。



4図 いきなり迫るのは さかのぼって、1図の白3でいきなり白1ツメてくる手も考えられます。初心者はつい打たれた方に石が向かいますが、ここは白が打つはずだった黒4に守るのが落ちついた手で、次に白1の石をハサんで攻める狙いがあります。白は5と二間に開いて守り、これも定石です。

5図 小ゲイマガカリに一間受け 白の力かりに一間に受けるものもあります。白3とケイマにスべれば黒3から白5までは1図と同じになります。黒の一間はすそが空いているので、ここで手抜きはできず、黒6と星下にヒうきます。黒6は一路高く星にヒうくこともあります。

5図で 黒2と一間に受けた後、白が隅に働きかけず、辺の星(または星下)にヒうく定石もあります **一間受けに辺の星** (研究してください)

以下次号

問題は、初級囲碁講座(無料講座)より引用しました。次号は10月20日発行予定です